

開発ライブラリ管理システムとは

開発ライブラリ管理システムは、ソフトウェアの障害、仕様変更等で発生するソースの変更を管理するためのツールです。

ソフトウェアの開発組織(プロジェクト)において、初期バージョンをリリースのための結合テストが開始されたときからそのソフトウェアのライフサイクルを通してソースを集合管理が必要となります。

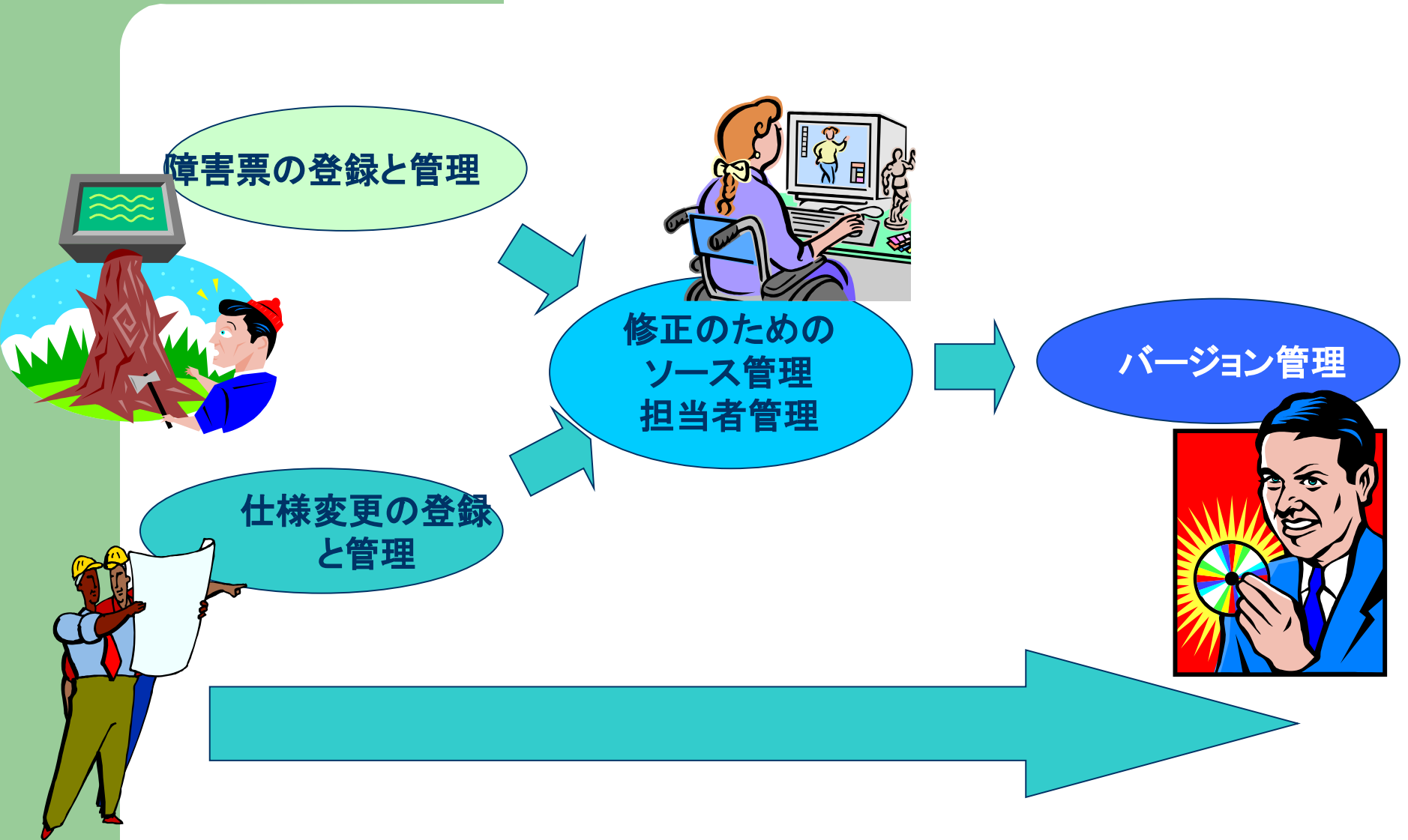
システム開発の過程で、単体テストが完了しソースコードが共有情報として管理した時点からのソースコードの修正が発生し、結合テスト以降での障害対応や設計書へ変更対応が考えられます。また、リリース後にもバージョンアップなどにも対応する必要があります。

これらのコードの変更を伴う、ソースのライン管理、バージョンの管理は多くの開発者が携わっているプロジェクトでは大変重要な管理課題となります。

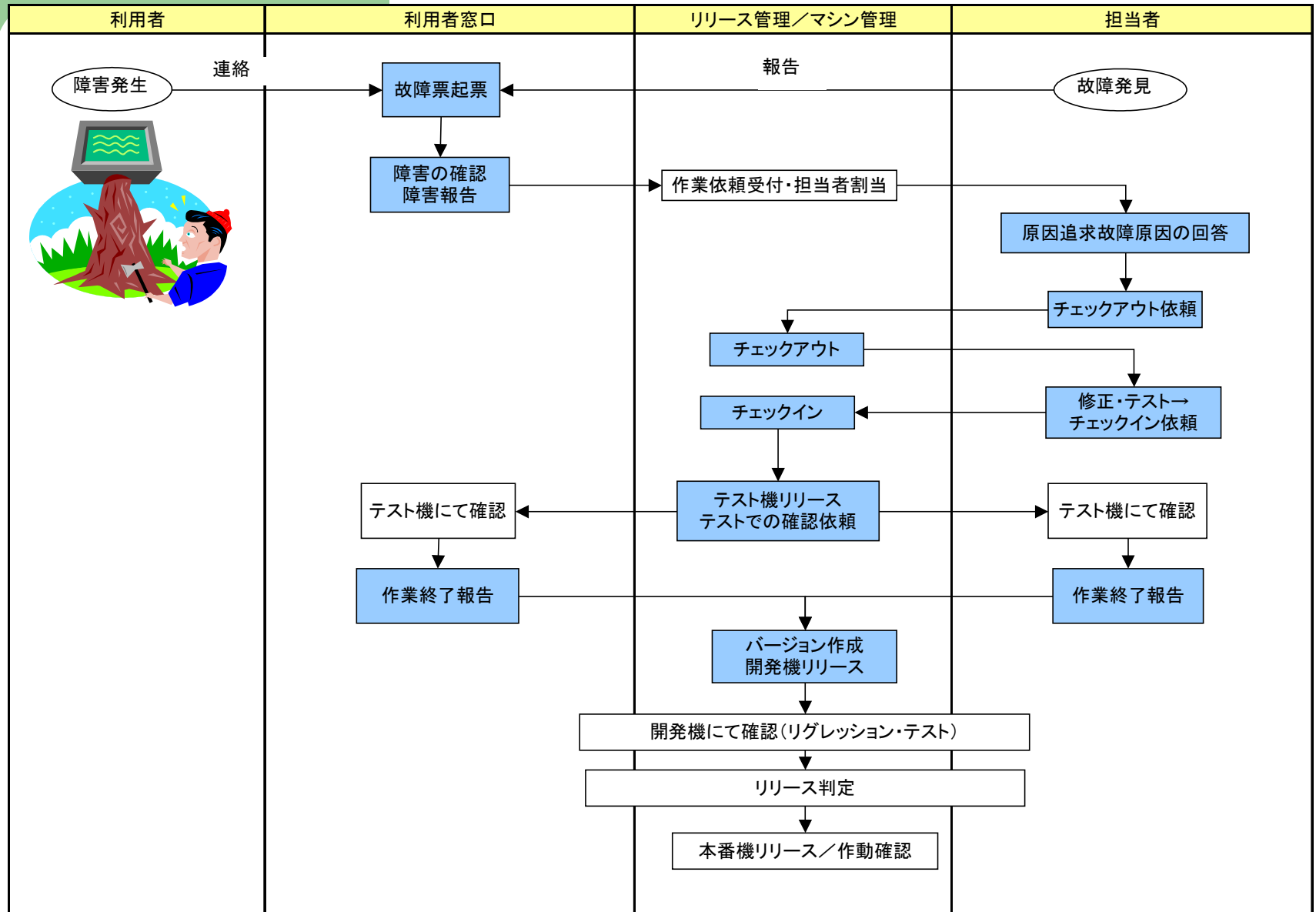
また、担当者がソースに変更を行う場合、他の担当者が行っている変更とコンフリクトを起こさないことを保証するためにも明確で分かりやすい連絡手順が求められます。

このツールではソフトウェアの顧客や内部から上がる障害の報告や仕様の変更の要求に対しての窓口担当者、修正担当社およびその管理者(ライブラリ管理者)の3者をそれぞれ支援する仕組みを提供するものです。

開発ライブラリ管理の機能



システム利用手順(故障管理)



システム利用手順(仕様変更管理)

